

水の格差

2018年世界の水の状況



はじめに



WaterAid/ Sibtain Haider

2018年は、世界屈指の観光国で水が枯渇した年として、歴史に刻まれることになるかもしれません。

私たちが暮らす世界で何よりも大切な資源が、人口増加の影響でどんどん少なくなっているという事実。南アフリカのケープタウンが「デイ・ゼロ（水の枯渇により都市全体で断水が始まる日）」となる日を発表したと報じられたことで、改めてその驚くべき事実に目が向けられています。

しかし、あまり報道されることのない他の地域でも、すでに節水が始まっているところや、水を求める人の長い列ができているところは数多くあります。水の供給を適切かつ公平に管理することの必要性が、世界中で高まっているのです。

現時点ですでに世界人口の60%以上が水ストレスを抱える地域、つまり水の供給が需要に見合っていない地域や、そうなるおそれのある地域に暮らしています。水源から蛇口まで、そして水源に戻るまで、水がもっと慎重に管理されなければ、いま水の危機に直面している地域は、近い将来、破滅的状况に陥ってしまうでしょう！

今年の報告書『世界の水の状況』では、自宅周辺で清潔な水を利用できないと定義された人の数が増加したことが明らかになり、ワースト10のランキングには、これまで名前の挙がっていなかった国も入っています。

生きるために最も大切な水。それを手に入れることが困難な人の数は、現在約8億4,400万人にもものぼります。この数字は前回の統計より約2億人増加しています。

現在の統計では、水源の種類と水源までの距離の両方についてデータがとられるようになっており、水源まで往復30分以上かかる場合は、水を利用できる状態とはみなされなくなりました。

その結果、ウガンダやニジェールといった国も、水を利用できる人口の割合が最も悪い国として名を連ねることになりました。こうした国々のなかには、農業と工業で水を取り合う状況や、異常気象、政情不安、紛争、避難・退去といった、ますます困難な問題に直面している国も多くあります。

水の利用状況と所得状況の関係を調べた新しいデータによると、人々の水の利用が改善されている国ですら、富裕層と貧困層の間にはまだ大きな格差があることが明らかになっています。



危険な浅井戸で水をくみ、歩いて帰る若い女性と女の子たち（タンザニア、ゲイタ州ニャルグス近郊）

WaterAid/ Sam Vox

今年の報告書に示されているとおり、世界のどこを見ても、清潔な水を最も利用できないのは貧困かつ力のない人々です。高齢者、病気の人、障害者、農村部に住む人や避難している人、そしてカーストや民族、宗教などを理由に差別を受けている人々。それは、富と権力の格差、社会的・文化的状況、リソース不足が障壁となって、公共サービスが最も届きづらい人々でもあります。そしてジェンダーもまた、この格差に拍車をかけています。水を手に入れられる場所を見つけ、そこから水をくんでくるのも、水が手に入りづらい場合に対策を考えるのも、ほとんどの場合は女性と女の子たちの仕事です。考えてみてください。1人の人間が生活するために最低限必要な水の量として、国連が提唱しているのは1日あたり50リットル。これを家族4人分、女性1人が30分かかかる水源までくみに行っているとすると、**1年間のうち実に2か月半**をこの仕事に費やすこととなります。

2018年は、この状況を変える契機となり得る重要な年です。およそ3年前、世界のリーダーたちが国連の持続可能な開発目標（SDGs）を採択しました。これは極度の貧困に終止符を打ち、より公正で、より持続可能な世界を実現するという約束です。今年の夏、ニューヨークで開催される国連ハイレベル政治フォーラムでは、すべての人々に水と衛生へのアクセスと持続可能な管理を確保することを掲げた目標6について、進捗状況の評価とさらなる推進の提言が行われることになっています。

毎年28万9,000人の子供たちが、不衛生な水、不適切なトイレ、不十分な衛生習慣に直接関係した下痢性疾患で、5歳の誕生日を迎える前に命を落としています。この状況が当たり前であってよいはありません。決して見逃すことのできない重大な危機なのです。

水へのアクセスとは？

家庭の蛇口をひねればいつでも清潔で安全な水が飲める。ほとんどの恵まれた人たちにとっては、それが水にアクセスできるということでしょう。自宅や近所で清潔な水を利用できる人の割合は、世界人口の約89%。2000年の81%から増加しています。しかし、これは同時に8億4,400万人の人々を、水アクセスの「はしご」の最下段に取り残しているということでもあります。清潔な水を求めて長い道のりを歩く生活、不衛生な井戸や川、池に頼らざるをえない生活が、そこにはあります。

ユニセフとWHOの共同モニタリングプログラム (JMP) 水のアクセスの「はしご」

安全に管理された水：安全な飲み水として処理・検査済み。家庭まで水道がひかれ、必要なときに利用可能。世界で約52億人（世界人口の71%）がこのレベルのサービスを利用³。

基本的な給水サービス：水道、覆いのある深井戸や掘削井戸、保護された泉、雨水貯留設備、ボトル入りの水や給水車などの水を、往復30分以内の距離で利用できる。このレベルのアクセスに頼っている人口は1億3,000万人。

給水サービスが限定的：基本的な給水サービスを利用できる場所まで、往復30分以上かかる（列に並ぶ時間を含む）。

給水サービスが未整備：覆いのない手掘り井戸や保護されていない泉などの水を飲み水に使用。

表面水：病気になるとわかっているにもかかわらず、川、ダム、湖、池、小川、運河などの水をそのまま飲み水に使用。

水へのアクセスを阻む6つの要因



1. 資金不足と政治における優先的取り組みの欠如

「はしご」の最上段の国々では、国の政府と地方自治体が水の問題を優先課題とし、資金と専門知識を注ぎ込んで、水へのアクセスを確保しています。行政が水に対する人間の基本的ニーズに優先的に取り組まない限り、水供給の不均衡と水不足に陥る結果となります。

2. 給水サービスを提供・維持できる機関の欠如

イギリスやアメリカをはじめとする先進諸国では、行政の規制対象となる事業者が給水サービスを提供・維持しています。こうした公共サービス事業者は必要な投資を行うとともに、業務を怠った場合には法的な代償を支払うことになっています。開発途上国でも最終目標は同じです。訓練の行き届いた、行政の制対象の事業者が、すべての人に持続可能な給水サービスを確実に提供することが目標となります。

3. 有効な税金制度・料金制度の欠如

安全な飲み水に対する人権を実現するということは、すべての人が安全な飲み水を手の届く料金で利用できなくてはならないということです。しかし、料金を支払える人々から有効な方法で徴収しなければ、困窮する人々に給水サービスを届けることが難しくなってしまいます。所得に応じた水使用料の設定や、給水設備の初期費用に対する助成制度を盛り込んだ「プロプア政策（貧困層に配慮した政策）」が求められます。

4. 住む場所と住む権利

大きな町や都市から遠く離れた場所に住んでいる場合、あるいは都市の中心でも都市計画外の地域や違法な居住地域に住んでいる場合、安定的に水道水を利用できないばかりか、まわりの環境に翻弄され、有力者の言いなりにならざるを得ない可能性が高くなってしまいます。また、業者の地下水くみ上げが規制されていないために家庭で使える水が減ったり、水源が汚染されたりすることで、最も権利の弱い人々が被害を受けることとなります。

5. 差別

カースト、階級、健康状態、政治信条、住む家がないこと、住んでいた地域から災害などの理由で避難すること—こうしたことはすべて水へのアクセスを阻む原因になります。本人が水使用料を賄えない場合もあれば、迷信や汚染に見当違いな怖れを抱く他の人々から締め出される場合もあります。

6. 災害と避難・退去

水のアクセスが脆弱な地域では、ハリケーンや干ばつ、紛争によって完全に水のアクセスが失われ、給水制限でなんとかしのいだり、他の地域に移り住んだりしなくてはならないこともあります。給水サービスのインフラと維持体制がしっかり整備されていれば、突如の打撃にも耐え、迅速に復旧することができます。

格差とは？

格差を生むのは富と権力です。その人が誰で、どこに住み、どのような社会経済的状態にあるかによって、格差が決まります。年齢や教育、民族なども影響します。時とともに、年をとったり、健康状態が変わったりすることで変わることもあれば、紛争や災害などの出来事で変化が生じることもあります。

清潔な水を利用できるかどうか、こうした様々な要素の影響を受け、人生を通して変わっていくことがあります。

飲み水の汚染で健康被害に苦しむ織物工のアレヤさん
(バングラデシュ、ガジプール県バングラバザール)

水へのアクセスが困難な地域では…

健康が損なわれます

下痢性疾患、皮膚疾患、感染症、河川盲目症、トラコーマなどはすべて、不衛生な水、不十分な衛生設備や衛生習慣が関係している可能性がありますと考えられます。新生児が死亡するケースの4分の1は感染症や敗血症が原因です⁴。これは、安全な水と適切な衛生設備、十分な衛生習慣のある場所出産していれば、防ぐことができるはずの死なのです。幼児が頻繁に下痢や寄生虫による病気を患っていると、栄養不良や成長阻害に陥る可能性が高くなります。また、地下水の塩水化が進む地域では、高血圧や子癇（しかん）の症状が多く見られます。

安全が脅かされます

水くみは、長く人気のない道りを歩いて行くこともあります。危険なヘビや野生動物に出くわしたり、いやがらせや暴行の被害に遭ったりするおそれもあります。また、水くみは重労働でもあります。20リットルのポリタンクいっぱいに入水を入れると、飛行機に乗るときに預け入れる手荷物の制限重量（20 kg）と同じ重さになります。これを背負ったり頭に寄せたりして1日何度も狭く険しい道を通ぶとなると、ケガの危険や体への負担は相当なものになります。

教育を受けることができなくなります

喉が渇いているときに勉強しようとしたことがありますか？集中などできたものではありません。自分が6歳の子供だったとして、満員の暑い教室で、何も飲まずに何時間も過ごすことを考えてみればわかります。また、家族のために水くみに行かなくてはならない子供たちは、授業に遅刻することが多く、早い段階で学校を辞めてしまうこともよくあります。

十分な収入を得ることができません

自活しようにも、病気ばかりしては、生活が立ち行かなくなってしまいます。水くみに毎日何時間もかかる場合も、やはり生活は苦しくなってしまいます。清潔で安全な水源が近くにあれば、時間を節約することができ、健康状態は改善し、ちょっとした商売を始められる可能性も開けます。

社会的立場が弱まり尊厳が損なわれます

水が不足しているために体や衣服を洗えなければ、恥ずかしい思いをしたり、孤立してしまったりすることがあります。これは、水くみ場まで行って水をくんで来るのが難しい高齢者、病気の人、障害者の場合は特に問題となります。また、月経中の女性や女の子たちは、日常生活を続けたり、体を清潔に保ったりすることが難しく、感染症のリスクも高まります。

ジェンダーの格差と搾取が助長されます

これは水くみの作業よりはるかに根深い問題です。極度の水不足や気候ストレスに苦しむコミュニティでは、生き延びるために家族が昔ながらのあり方に戻ってしまうため、ジェンダー格差の解消が進んでいなくても、また後退してしまいます。モザンビークのように自然災害の被害が大きい国では、家庭内暴力や児童婚が増加していることがわかっています。嫁ぎ先で養ってもらえることを期待して、困窮した家族が娘を早く結婚させているのです⁵。

水を利用できる人の割合が最も少ない国—TOP10⁶

*denotes 2015 ranking



順位	国	基本的レベル以上の水アクセスがある(%)
1	エリトリア	19
2	パプアニューギニア*	37
3	ウガンダ	38
4	エチオピア*	39
5	コンゴ民主共和国*	39
6	ソマリア	40
7	アンゴラ*	41
8	チャド*	43
9	ニジェール	46
10	モザンビーク*	47

今年の第1位は紅海に面した国、エリトリア。専制国家であり難民の通り道にもなっているこの国では、人口の19%しか自宅近くで清潔な水を利用することができません。前回1位だったパプアニューギニアは2位に順位を下げたものの、海面上昇や異常気象など、今なお気候変動の影響を大きく受けています。

第3位となったウガンダは、今年初めて10位以内に入ったことから、遠くまで歩いて水くみに行く人が多いことがわかります。自宅近くで清潔な水を利用できる人の割合は、わずか38%に過ぎません。内乱終結後の数年間は進捗が見られたウガンダですが、現在は経済が停滞し、農業は安定的ではない雨の影響を受けざるを得ないという、隣国の

南スーダンで起きた紛争のためにアフリカ最大の難民受け入れ国となっています。⁷

第9位に入ったニジェールは、サハラ砂漠に位置する内陸国。人口の44%が貧困状態にあるニジェールは、2016年に国連が発表した後発開発途上国の第2位に位置付けられています。世界で最も人口増加率の高い国のひとつでもあり、1年に3.9%の割合で人口が増えています⁸。干ばつのみならず洪水の被害も大きいニジェールでは、食料供給が不安定で、2017年には150万人以上に影響を及ぼし、5歳未満の子供の約42%が栄養不良の状態にあります⁹。ニジェールも、国境を接するリビア、ナイジェリア、マリから紛争を逃れてきた難民の受け入れ国となっています。¹⁰

ウガンダ



WaterAid/James Kiyimba

38%：自宅の近くで清潔な水にアクセスできる人の割合

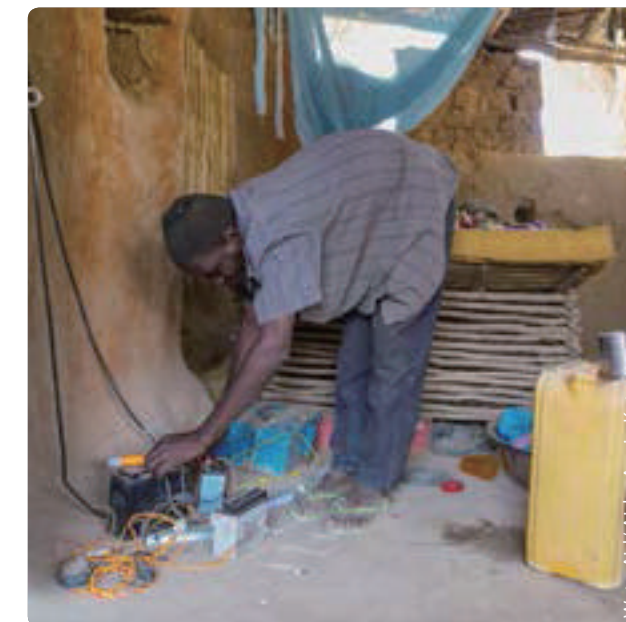
35%：貧困層で清潔な水を利用できる人の割合

72%：富裕層で清潔な水を利用できる人の割合

国連人間開発指数ランキング：163位

アグティ・アンナ・グレースさん（41歳）は2005年、反政府勢力「神の抵抗軍」の拷問を受けて片腕を失い、3人の子供を亡くしました。家からいちばん近い水くみ場でも3キロ離れていますが、今は家にウォーターエイドから提供された雨水貯留タンクがあるため、アグティさんの生き残った子供たちは時間に余裕ができて、学校に行けるようになりました。「私のように体が不自由だと、水くみ場まで行って水をくんで帰るのは本当に大変です。このタンクのおかげで、雨期が続く限り水が不足することはありません」とアグティさんは言います。「タンクの水はきれいなので、家事には全部この水を使っています。」

ニジェール



WaterAid/Aisha Augie-Kote

ハマドゥ・セイドゥさん（45歳）は、ニジェール川に浮かぶノランデ村で生まれました。妻と3人の子供たちも、この村の生まれです。「私の仕事は主に農業で、米を作っています。ここ数年、大雨で土地の一部が水に浸かり、農業は大きな打撃を受けています。ウォーターエイドがやって来るまで、みんな腹痛や皮膚感染、下痢といった病気で頻りに苦しんでいました。それで命を落とすこともあったのです。今では村のほぼ全員が、ニーズに合ったトイレを使えて、新しい掘削井戸で必要な飲み水をくむこともできます。洗濯や食器洗い、農業用、レンガ作りといった用途には、今でも川の水を使っています。」

46%：自宅の近くで清潔な水にアクセスできる人の割合

41%：貧困層で清潔な水を利用できる人の割合

72%：富裕層で清潔な水を利用できる人の割合

国連人間開発指数ランキング：187位

自宅の近くで清潔な水を利用できない 人数が最も多い国—TOP10¹¹

*denotes 2015 ranking



順位	国	近くで清潔な水を利用できない人数
1	インド*	163,105,959
2	エチオピア*	60,504,853
3	ナイジェリア*	59,498,110
4	中国*	57,545,973
5	コンゴ民主共和国*	46,879,641
6	インドネシア*	26,982,307
7	タンザニア	26,657,528
8	ウガンダ	23,840,407
9	パキスタン*	21,640,293
10	ケニア*	19,130,780

人数別の順位は今回もインドが1位となりました。清潔な水を利用できる人数を増やすという点では世界トップクラスの改善率を実現している国ですが、地下水位の低下、干ばつ、農業・工業用水の需要拡大、水質汚染、不十分な水源管理といった問題を抱えています。気候変動の影響で異常気象の被害が多発するなかで、こうした問題はさらに深刻なものとなっています。インドは昨年11月、地方給水プログラムを再編し、2022年までに農村世帯の90%に水道水を供給するという目標を掲げました¹²。

タンザニアは、水源までの距離も統計に加味されるようになった今年、初めてこのランキングに登場しました。清潔な水が手に入る場所まで歩いて30分以上かかる人が13%、安全ではない水源に頼っている人が37%となっています¹³。タンザニアはこの25年で人口が2倍以上

に増加し、急速に都市化が進む一方で、度重なる干ばつに見舞われ、農業用に大量の水も必要という、水ストレスを抱えた状態にあります¹⁴。タンザニア政府は安全な水へのユニバーサルアクセスを2025年までに実現することを目指していますが、そのためには水の適切な管理と、水の使用に関する問題への優先的取り組みが不可欠です。

パキスタンも、工業化、農業用水の需要、地下水の枯渇や塩水化の進行、急速な都市化、干ばつといった深刻な問題に直面しており、いずれの問題も大きな被害をもたらしています。パキスタンでも富裕層と貧困層の格差は明白で、清潔な水を利用できる人の割合が富裕層では100%近くに達しているのに対し、貧困層では79%にとどまっています。

パキスタン

88.5%：自宅の近くで清潔な水にアクセスできる人の割合

79.2%：貧困層で清潔な水を利用できる人の割合

98%：富裕層で清潔な水を利用できる人の割合

国連人間開発指数
ランキング：147位



寝たきりの夫の世話をしながら5人の子供を育てているバナさんは、パキスタンのタルパルカーにあるバナニビール村で暮らしています。ここには現在、ウォーターエイドと現地パートナーが設置した太陽発電の逆浸透装置があります。「この地域の人たちは、淡水が出る井戸を掘ったり探したりすることに、ほぼ一生を費やしてきました。こんなに豊富な水を利用できるようになるなんて、思ってもみませんでした」とバナさんは言います。「逆浸透装置ができる前は、家族の喉の渇きを癒すために、何マイルもロバに乗って井戸水をくんで来なければならませんでした。水を手に入れるのに2時間から4時間もかかっていたのです。」

タンザニア

タンザニアのアジア・ルーカスさん（62歳）は、お金を払ってニャルグスの街に程近い場所に浅井戸を3本掘ってもらいました。現在はその井戸水を地元近隣の金鉱労働者やその家族らにバケツ1杯200シリングで販売していますが、乾期には水が乏しくなるうえ、発疹や下痢の症状を訴える人も大勢います。このコミュニティは間もなくウォーターエイドの水・衛生プロジェクトに参加することになっています。「この人たちは飲み水も体を洗う水も、すべてこの浅井戸に頼っています。毎日この水を使っているのです。ここに深井戸ができれば本当に助かります。」



50%：自宅の近くで清潔な水にアクセスできる人の割合
22%：貧困層で清潔な水を利用できる人の割合
85%：富裕層で清潔な水を利用できる人の割合
国連人間開発指数ランキング：151位

水へのアクセスが最も改善された国 —TOP10（割合別）



順位	国	アクセス率(2000年)	アクセス率(2015年)	改善率(%)
1	アフガニスタン	27.1%	62.9%	35.8
2	ラオス	45.8%	80.5%	34.7
3	イエメン	42.7%	70.4%	27.7
4	モザンビーク	22.2%	47.3%	25.1
4	マリ	49.2%	74.3%	25.1
5	パラグアイ	75%	98.9%	23.9
6	カンボジア	52.4%	75%	22.6
7	エチオピア	16.7%	39.1%	22.4
8	ナイジェリア	46.1%	67.3%	21.2
9	シエラレオネ	38.7%	58.1%	19.4
10	ソマリア	20.7%	40%	19.3

このカテゴリーで初登場となるアフガニスタンは、不安定ではありますが、再建への大規模な取り組みに力を注いでおり、困難を抱えながらも清潔な水へのアクセスを拡大しています。イエメンは2015年の内戦勃発前に改善が見られたものの、現在は紛争やコレラの流行によってインフラ崩壊の兆しが現れています。

ラオス（第2位）とカンボジア（第6位）はともに、東南アジア諸国のなかでも改善が進んでいる国であり、経済成長と開発の効果で数百万人が貧困状態から抜け出すことができました。しかし、貧富間の水利用の格差は依然として存在し、カンボジアでは富裕層の95%が清潔な水を利用できるのに対し、貧困層で同じ状態に達していると言えるのはわずか61%となっています。

4位にはマリとモザンビークが並んでいますが、この2国はともに、大きな問題

を抱えている国でもあります。モザンビークは首都マプトが現在深刻な水不足に陥っており、給水制限の準備を進めています。

マリでは平和は暫定的なものでしかなく、干ばつや人口急増もあいまって、食料の供給が不安定な状態です¹⁵。今年の乾期には約410万人が食料不足に陥ると見られています¹⁶。

第8位のナイジェリアは、サハラ以南のアフリカで最も所得の高い、意欲的な中所得国ですが、それでも国民への清潔な水・衛生の提供には苦勞しています。ここ15年で水アクセスは大きく改善したものの、進展が見られるのは主に富裕層であり、貧困層に限ればわずか30%の人々しか自宅近くで清潔な水を利用することができません。

マリ



WaterAid/ Basile Ouedraogo

74%：自宅の近くで清潔な水にアクセスできる人の割合
45%：貧困層で清潔な水を利用できる人の割合
93%：富裕層で清潔な水を利用できる人の割合
国連人間開発指数ランキング：175位

バマコ郊外のカティ・マリブーグで暮らすカディディアトゥ・ディアラさん（62歳）は、線路を渡った先にある水飲み場まで、歩いて水をくみに行っています。「ある日、孫たちに小さな台車を持たせ、水くみに行ってもいました。その日、水をくんで帰って来る途中、孫たちの引いていた台車が壊れ、線路の真ん中で立ち往生してしまったのです。列車は近付いてくると、孫たちは泣き叫んで大パニックでした。幸運なことに、大人が何人が駆けつけて助けてくれました。本当に運が良かったのです。孫たちは危うく列車にひかれるところでした。あの日のことは忘れられません。本当に怖い思いをしました。」

ナイジェリア

ボルノ州に住んでいたペイシャンス・ジェームズさんとラハブ・ピーターさん（ともに20歳）は、反政府勢力の襲撃を逃れ、アブジャにある国内避難民キャンプに移り住んで3年になります。「今は新しい掘削井戸の水を使えますが、以前はきれいな水は買うしかなく、服を洗いたければ川に行くしかありませんでした。でも川の水は汚れていました。トイレもひどかったので草むらで用を足していましたが、雨が降ると何もかも川に流れ込んでしまうのです。」



WaterAid/ Simi Vijay

67%：自宅の近くで清潔な水にアクセスできる人の割合
30%：貧困層で清潔な水を利用できる人の割合
89%：富裕層で清潔な水を利用できる人の割合
国連人間開発指数ランキング：152位

2000年以降に水へのアクセスが最も改善された国—TOP10¹⁷



順位	国	水にアクセスできるようになった人数
1	中国	334,263,785
2	インド	300,788,777
3	インドネシア	72,843,098
4	ナイジェリア	66,085,442
5	パキスタン	44,328,750
6	ブラジル	37,923,597
7	メキシコ	33,052,687
8	バングラデシュ	32,439,869
9	エチオピア	27,766,769
10	フィリピン	24,046,112

世界のなかでも特に大きな国々で、際立った成果が見られました。上表のとおり、世界で最も多くの人口を抱える中国とインドの2国では、2000年以降に水にアクセスできるようになった人の数も最多となっています。特にインドは水のアクセスの改善に重点的取り組みを行っており、インド政府の報告によると、前回の2015年ユニセフ・WHO共同モニタリングで収集された上表のデータ以降、さらに改善が進んでいるとのこと。

しかし、この表に示された国はいずれも大きな課題を抱えており、貧困層や最も社会から疎外されている人々にまでは改善の広がりが見られない国も多くあります。例えばパキスタンは2000年以降、4,400万人が水にアクセスできるようになったものの、自宅近くで清潔な水を利用できる人の割合を見ると、富裕層ではほぼ100%に達している一方で、貧困層ではまだ5分の1が取り残されています。

バングラデシュの場合、清潔な水へのアクセスにおける貧富間の格差はかなり狭まりましたが、この国もやはり深刻な問題に直面しています。バングラデシュは世界のなかでも特に気候変動の影響を受けやすい国です。海面上昇によって地下水はますます塩水化が進み、南部では新たな水の危機が発生しています。バングラデシュでは家庭用の水源の12.5%が自然由来のヒ素で汚染されていることもあり、さらに水のアクセスの確保が難しくなっています¹⁸

バングラデシュには昨年、隣国のミャンマーから迫害を逃れてきた約70万人のロヒンギャ難民が流入。わずか数週間で難民キャンプの規模が一気に拡大したことも、バングラデシュの水源に負担がかかる原因となっています。

インド



88%：自宅の近くで清潔な水にアクセスできる人の割合

国連人間開発指数
ランキング：131位

ハルダマジさん（45歳）は、オディシャ州西部のキレジョホラ村で暮らしています。村にあった手掘り井戸は覆いがされておらず、細菌や自然由来のフッ化物で汚染されていました。フッ化物は濃度が高いと骨格障害を引き起こす危険があります。そこでウォーターエイドと現地パートナーは、改良された井戸から水を引けるように、小型の水道システムを設置しました。「足と肘の腫れがひいてきました。以前は地面に座ることも、長時間の家事もできませんでした。今ではずいぶん良くなりました。子供たちはこんな健康問題に苦しむことはないでしょうから、私も安心です。」とハルダマジさんは話してくれました。

バングラデシュ



97.3%：自宅の近くで清潔な水にアクセスできる人の割合¹⁹

93.2%：貧困層で清潔な水を利用できる人の割合

98.9%：富裕層で清潔な水を利用できる人の割合

国連人間開発指数
ランキング：139位

衣類製造の仕事をしているヌルン・ナハルさん（40歳）は、ダッカ郊外のバングラバザールに住んでいます。「表向きにはずいぶん変わった地域もありますが、私たちの地域は何も変わりません。ここには下水道がないので排せつ物が川に流れ込みます。その川を水源として使っている人が大勢いるのに。掘り抜き井戸は6か月しか水を使えないものがほとんどで、夏になるとひたすら水を探し回っています。飲み水を買わなくてはならないこともあります。」

まとめ

これは、世界が乗り越えることのできる危機です。清潔な水を供給する方法はわかっています。病気を防ぎ、開発を後押しし、コミュニティの健康状態を改善できる手段を、私たちは手にしているのです。

地球の水の未来はどうなるのか。どうすれば、すべての人が平等に水を使い、基本的なニーズを満たせるのか。これは何より差し迫った問題です。

この危機に対し、ウォーターエイドは世界中の政府に、手の届く料金で飲み水を利用できるという人権の実現を呼び掛けています。

今年の夏、グローバル目標6の評価が行われます。そのなかで、目標達成に十分なペースでは改善が進んでいないことや、すべての人に清潔な水を供給するという仕事がさらに困難になっている状況が示されることになるでしょう。今のままでは、必要な変化を実現することはできないのです。



家族で暮らすクトゥパロン
難民キャンプの一時避難所
への帰り道、坂道を登る途
中で一休みして水を飲む
ロヒンギャの女の子
(バングラデシュ、
コックスバザール)

WaterAid/ Al Shahrir Rupam

ウォーターエイドからの 提言



認識を高める：

国連のグローバル目標を実現し、誰ひとりとして取り残さないことは、世界の人々全員の責任です。目標を達成できなかった場合、その責任はすべての人にあるのです。

緊急に対策を講じる：

現地、地域、国、世界の各レベルで緊急な対策が必要です。安全な飲み水へのアクセスは国連が認める人権です。政治には、この人権実現への優先的取り組みと資金拠出が求められます。社会はすべての人が人権を主張できるよう支援しなくてはなりません。そして水・衛生業界は、それに応える公共サービス事業者と政府をサポートする必要があります。

財源を確保する：

税金、使用料の徴収、予算の組み替えなどによる資金確保が必要です。貧困層や最も社会から疎外されている人々が水を利用できるようにするには、水を供給する組織やシステムを支える助成金がますます必要になります。資金は明瞭かつ適切に管理して、適正に使われるようにしなくてはなりません。また、すべての人が水のアクセスを確保できるよう、貧困層に配慮した政策の推進も必要です。

清潔な水へのアクセスを他の分野に統合する：

保健、教育、栄養、ジェンダーの平等といった分野でも、水・衛生を中心に据える必要があります。国連が掲げる他のグローバル目標も、水がなければ何ひとつ達成することはできません。

責任を持って環境を管理する：

コミュニティの基本的なニーズを満たせるだけの清潔な水を保護・保全するには、農業・工業用水に規制を設けるなど、責任ある環境管理を実施しなくてはなりません。



近所の井戸でくんだ水を自宅に運ぶ
カシ・ラムさん（50歳）
（インド、マディヤ・プラデシュ州
ディンドリ県バイガチャク、
ソータルバニ村）

Appendix

Global access to an at least basic water supply, WHO/Unicef Joint Monitoring Programme

Country	2015
Afghanistan	62.9
Albania	91.3
Algeria	93.4
Andorra	100
Angola	41
Anguilla	98.2
Antigua and Barbuda	96.7
Argentina	99.6
Armenia	98.9
Aruba	97.8
Australia	100
Austria	100
Azerbaijan	84.3
Bahamas	97.7
Bahrain	100
Bangladesh	97.3
Barbados	98.1
Belarus	98
Belgium	100
Belize	97.1
Benin	67
Bermuda	99.9
Bhutan	97.5
Bolivia	92.8
Bosnia and Herzegovina	97.6
Botswana	79.1
Brazil	97.4
British Virgin Islands	99.8
Brunei Darussalam	99.5
Bulgaria	99.2
Burkina Faso	53.8
Burundi	55.9
Cambodia	74.9
Cameroon	65.2
Canada	98.9
Cape Verde	86.4
Central African Republic	54.1
Chad	42.5

Country	2015
Chile	100
China	95.8
Colombia	96.5
Comoros	83.7
Congo	68.3
Cook Islands	99.8
Costa Rica	99.6
Cote d'Ivoire	73
Croatia	99.5
Cuba	95.1
Cyprus	100
Czech Republic	99.8
Democratic Republic of the Congo	39.3
Denmark	100
Djibouti	76.9
Dominica	96.5
Dominican Republic	94.4
Ecuador	92.6
Egypt	98.3
El Salvador	93
Equatorial Guinea	49.5
Eritrea	19.2
Estonia	99.6
Ethiopia	39.1
Fiji	93.7
Finland	100
France	100
French Polynesia	100
Gabon	87.5
Gambia	80
Georgia	93.2
Germany	100
Ghana	77.7
Gibraltar	99.6
Greece	100
Grenada	95.6
Guadeloupe	99.6
Guam	99.6

Country	2015
Guatemala	93.5
Guinea-Bissau	69.1
Guinea-Conakry	67.3
Guyana	95
Haiti	64.1
Honduras	92.1
Hungary	99.9
Iceland	100
India	87.5
Indonesia	89.5
Iran	94.8
Iraq	86
Ireland	98.9
Israel	100
Italy	100
Jamaica	92.9
Japan	98.9
Jordan	98.5
Kazakhstan	91.1
Kenya	58.4
Kiribati	64.3
Kuwait	100
Kyrgyzstan	87.2
Laos	80.4
Latvia	98.5
Lebanon	92
Lesotho	71.5
Liberia	69.9
Libya	96.7
Lithuania	97.3
Luxembourg	99.9
Macedonia	96.7
Madagascar	50.6
Malawi	67.1
Malaysia	96.4
Maldives	97.8
Mali	74.2
Malta	100
Marshall Islands	78.1
Mauritania	69.6
Mauritius	99.8
Mexico	98.3
Micronesia	88.3
Moldova	86.6
Monaco	100
Mongolia	83.2

Country	2015
Montenegro	97.6
Morocco	82.9
Mozambique	47.2
Myanmar	67.5
Namibia	78.7
Nauru	100
Nepal	87.7
Netherlands	100
New Zealand	100
Nicaragua	82.2
Niger	45.8
Nigeria	67.3
Niue	98.1
North Korea	99.6
Northern Mariana Islands	99.2
Norway	100
Occupied Palestinian Territory	87.6
Oman	90.9
Pakistan	88.5
Palau	99.5
Panama	95
Papua New Guinea	36.5
Paraguay	98.8
Peru	89.8
Philippines	90.5
Poland	97.8
Portugal	99.9
Puerto Rico	97.1
Puntland	NA
Qatar	100
Romania	100
Russia	96.3
Rwanda	56.7
Saint Kitts and Nevis	NA
Saint Lucia	98.1
Saint Vincent and the Grenadines	95.1
Samoa	95.5
San Marino	100
Sao Tome and Principe	79.6
Saudi Arabia	99.9
Senegal	75.1
Serbia	91.1
Seychelles	96.2
Sierra Leone	58
Singapore	100
Slovakia	97.9

Country	2015
Slovenia	99.5
Solomon Islands	64
Somalia	40
Somaliland	NA
South Africa	84.6
South Korea	99.5
South Sudan	50.4
Spain	99.9
Sri Lanka	92.3
Sudan	58.9
Suriname	94.6
Swaziland	67.6
Sweden	100
Switzerland	100
Syria	96.7
Tajikistan	74.1
Tanzania	50.1
Thailand	98.2
Timor-Leste	70.2
Togo	62.8
Tokelau	99.5
Tonga	99.9

Country	2015
Trinidad and Tobago	96.9
Tunisia	94.2
Turkey	98.8
Turkmenistan	94.4
Turks and Caicos Islands	94.3
Tuvalu	99.2
Uganda	38.9
Ukraine	97.7
United Arab Emirates	99.6
United Kingdom	100
United States of America	99.1
Uruguay	99.2
Uzbekistan	NA
Vanuatu	90.5
Venezuela	97.4
Viet Nam	91.1
Wallis and Futuna Islands	99.5
Western Sahara	NA
Yemen	70.3
Zambia	61.2
Zimbabwe	66.5

Endnotes

- 1 <https://openknowledge.worldbank.org/bitstream/handle/10986/28096/9781464811791.pdf?sequence=21&isAllowed=y> p 6 oct 2017)
- 2 WHO/Unicef Joint Monitoring Programme (2017) *Progress on drinking water, sanitation and hygiene, 2017 update and SDG baselines*. Available at: <https://washdata.org>
- 3 WHO/Unicef Joint Monitoring Programme (2017) *Progress on drinking water, sanitation and hygiene, 2017 update and SDG baselines*. Available at: <https://washdata.org>
- 4 www.childmortality.org/files_v21/download/IGME%20report%202017%20child%20mortality%20final.pdf
- 5 www.open.ac.uk/technology/mozambique/sites/www.open.ac.uk.technology.mozambique/files/files/Women_and_drought_in_southern_Mozambique-2016.pdf
- 6 WHO/Unicef Joint Monitoring Programme (2017) *Progress on drinking water, sanitation and hygiene, 2017 update and SDG baselines*. Available at: <https://washdata.org>
- 7 www.worldbank.org/en/country/uganda/overview#2
- 8 www.worldbank.org/en/country/niger/overview
- 9 www1.wfp.org/countries/niger
- 10 www.worldbank.org/en/country/niger/overview
- 11 WHO/Unicef Joint Monitoring Programme (2017) *Progress on drinking water, sanitation and hygiene, 2017 update and SDG baselines*. Available at: <https://washdata.org>
- 12 For more information see <http://indiawater.gov.in/IMISReports>
- 13 WHO/Unicef Joint Monitoring Programme (2017) *Progress on drinking water, sanitation and hygiene, 2017 update and SDG baselines*. Available at: <https://washdata.org>
- 14 <https://blogs.worldbank.org/nasakiliza/raising-the-watermark-in-tanzanias-growth-and-poverty-reduction-picture>
- 15 www.worldbank.org/en/country/mali/overview
- 16 <https://reliefweb.int/report/mali/wfp-mali-country-brief-november-2017>
- 17 WHO/Unicef Joint Monitoring Programme (2017) *Progress on drinking water, sanitation and hygiene, 2017 update and SDG baselines*. Available at: <https://washdata.org>
- 18 www.unicef.org/bangladesh/MICS_Key_Findings_Report_revised_05-08-2015.pdf
- 19 This number does not take into account naturally occurring arsenic which current measures do not account for – this reduces the number of households’ access to 85%.



Women wash clothes at a stream in the village of Noor Muhammad Thaheem, Thatta, Sindh, Pakistan.

WaterAid/ Sibtain Haider

One in nine people around the world do not have access to clean water close to home, and 60% of the world's population lives in areas of water stress, where the water supply cannot or will not continue to meet demand. With a review of UN Global Goal 6, to deliver safe water and sanitation to all by 2030, scheduled for summer 2018, it's clear nations are off-track on this commitment.

The Water Gap – The State of the World's Water 2018 reveals the countries where people are struggling most for clean water, highlights those countries that have made the most progress, and calls upon the world's governments to address the injustice of the water crisis.

Written by Carolynne Wheeler, with support from Fiona Callister, Louisa Gosling, Priya Nath, Amy Keegan, Jonathan Farr, Virginia Newton-Lewis, Stuart Kempster, Richard Steele, Laura Summerton, Sam James, and WaterAid teams in Bangladesh, India, Mali, Niger, Nigeria, Tanzania, Uganda and Pakistan.

March 2018

**www.wateraid.org
#TheWaterGap #StateOfWater #WorldWaterDay**



For more information or to arrange interviews, please contact WaterAid's global media team:

Global/UK:

Carolynne Wheeler, CarolynneWheeler@wateraid.org;
Fiona Callister, FionaCallister@wateraid.org

Australia:

Kirrily Johns, KirrilyJohns@wateraid.org.au

Canada:

Andrea Helfer, AHelfer@wateraidcanada.com

India:

Pragya Gupta, PragyaGupta@wateraid.org

Sweden:

Magdalena Olsson, Magdalena.Olsson@wateraid.se;
Petter Gustafsson, Petter.Gustafsson@wateraid.se

USA:

Emily Haile, EmilyHaile@wateraid.org

Cover photo:

Malika pours water in front of her home in Tillaberi region, Niger.

WaterAid/ Aisha Augie-Kuta